

広島ゆかりの文学 一冊に

歌人の大伴旅人や作家の林芙美子作品

安田女子大生ら刊行「作者の思い感じて」



冊子の完成を喜ぶ学生たち

安田女子大（広島市安佐南区）の文学部日本文学科の学生たちが、「広島ゆかりの文学―まほろば文学選集第一輯」を刊行した。主に県内出身の作家の小説や俳句などを収めており、広島に関連する日本文学を身

近に感じてほしい」と期待している。

A5判、247頁。4章構成で、古代から近代までの時代ごとに作品をまとめた。歌人大伴旅人（665～731年）が福山市の鞆の浦で詠んだ和歌や、尾道市で少女時代を過ごした作家林芙美子（1903～51年）の小説などを収録している。

学生自身による小説や詩を集めて昨年刊行した冊子に続く第2弾。有志54人が教員の協力を得て、取材から執筆、編集までを担当した。宮島（廿日市市）にある句碑や神社、尾道市の寺など作品にまつわる場所も

冊子「広島ゆかりの文学―まほろば文学選集第一輯」



巡り、学生自線のコラムを写真付きで載せた。

4年福原和花さん(21)は「短い言葉の中にも作者の思いや地域の描写が組み込まれていると知り、感動した。文学作品に興味を持つきっかけにしてほしい」と話す。

600部を作った。一部は広島市内の図書館などに

寄贈し、残りは紀伊國屋書店広島店（中区）で販売している。1部2200円(税込み)。同大☎082(878)9172。

(前田薫奈)